

1-4. 調査結果

(1) 広域分布調査

① 春季調査

春季調査において広範囲で確認された出現種の概要を表 5-1-3 に、広域分布の観察結果を図 5-1-2 に示す。

表 5-1-3 広域分布調査（春季）で確認された主要種の概要

調査日：平成 17 年 5 月 8 日～10 日

種名	河口干潟	住吉干潟
シオマネキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央の広いヨシ原内で局所的に確認された。</li> <li>生息密度はあまり高くない。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟中州の南側と右岸側干潟のヨシ原内やその周辺の泥域で確認された。住吉干潟ではごく少数の分布エリアが局所的に点在する。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>
ハクセンシオマネキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に干潟中央のヨシ帯縁部で確認された。</li> <li>砂泥域でも局所的に確認された。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟右岸側と右岸側干潟のヨシ原内やその周辺の泥域で多く確認された。住吉干潟では少数の分布エリアが局所的に点在する。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>
チゴガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟右岸側の砂泥域の水際付近で局所的に確認された。</li> <li>ごく一部ではあるがヨシ原内やその周辺の砂泥域において、シオマネキやハクセンシオマネキと混在しているところが確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟の水際部及び右岸側干潟のヨシ原周辺や水際部において比較的広範囲に確認された。</li> </ul>
コメツキガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂泥域の水際付近から干潟の高潮域付近まで非常に広範囲で確認されており、本干潟に最も広く分布する種である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟左岸側の一部と右岸側干潟の一部の砂泥域で分布が確認された。</li> </ul>
アシハラガニ属 <sup>注)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央のヨシ原内やその周辺で比較的広範囲に確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟の中央付近や右岸側干潟のヨシ原内やその周辺部で広範囲に確認された。</li> </ul>
ヤマトオサガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟右岸側の泥が主体の箇所において 1 カ所分布が確認されたのみである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>右岸側干潟の泥域で広範囲に分布が確認された。</li> </ul>
スナガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟右岸の高潮線付近や河口側左岸側にも局所的に分布が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今季の調査では確認されなかった。</li> </ul>
ヒロクチカノコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央のヨシ原内で比較的広範囲に確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟中央のヨシ原内（砂泥域）と右岸側干潟のヨシ原内で比較的広範囲に確認された。</li> </ul>
ヘナタリガイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央部から右岸側にかけての砂泥域で広範囲に確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>右岸側干潟上流側の護岸寄りでごくわずかが局所的に確認された。</li> </ul>
フトヘナタリガイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央のヨシ原内やその周辺の砂泥域で広範囲に確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟のヨシ原内で 1 カ所と右岸側干潟のヨシ原縁部やその内部の砂泥域で局所的に確認された。</li> </ul>

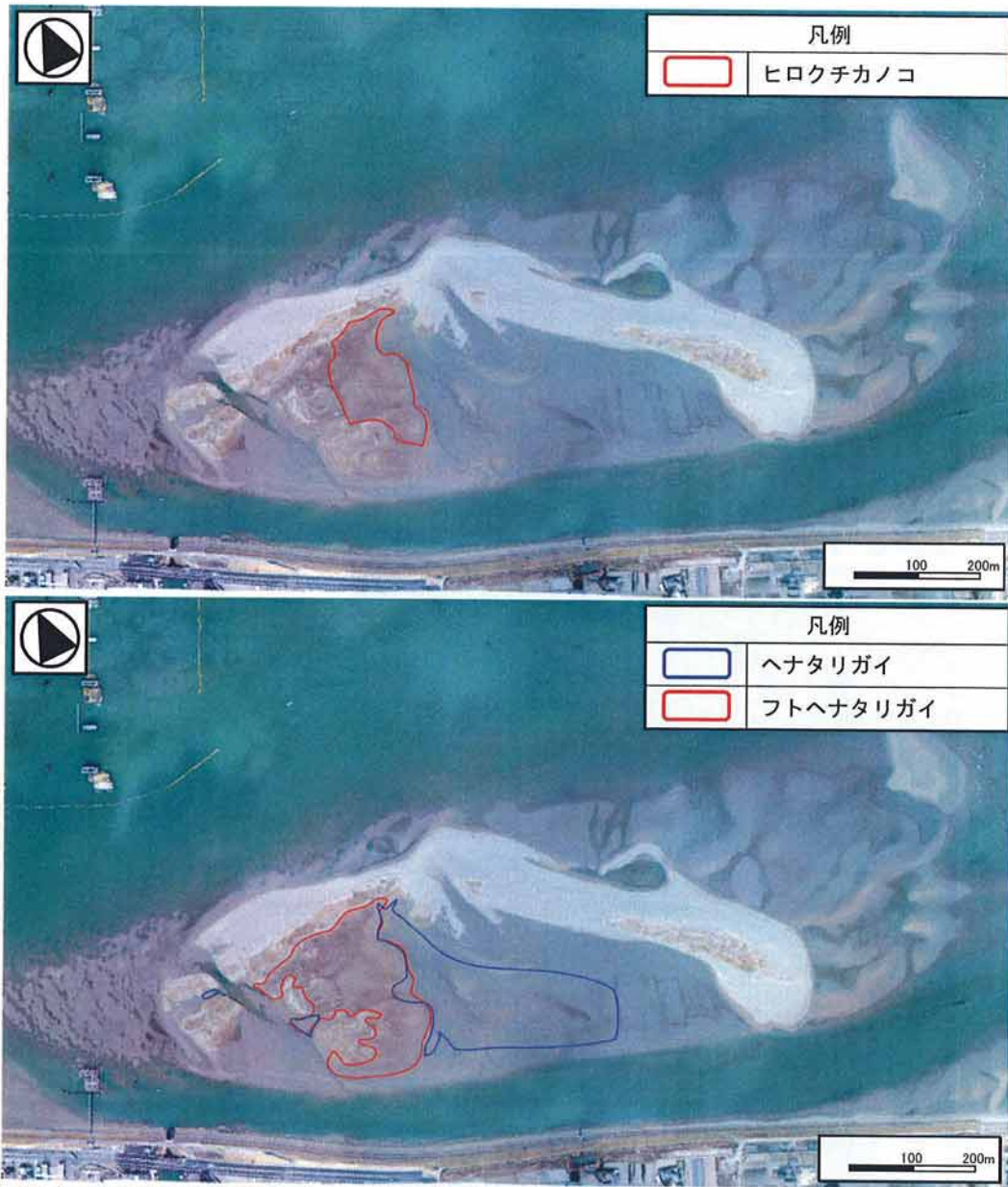
注) アシハラガニ属：目視確認した分布範囲の中にアシハラガニとヒメアシハラガニが混在しており、現地観察での同定が困難なため「アシハラガニ属」として扱った。

調査日：平成 17 年 5 月 8 日～10 日

観察者：株式会社パスコ 雑賀修一、北野武士 他 2 名

観察方法：干潟上で行動している底生動物を双眼鏡、望遠鏡を用いて確認した





<基図(レーダー測量を基に作成したオルソフォト)撮影日:平成 17 年 3 月 14 日>

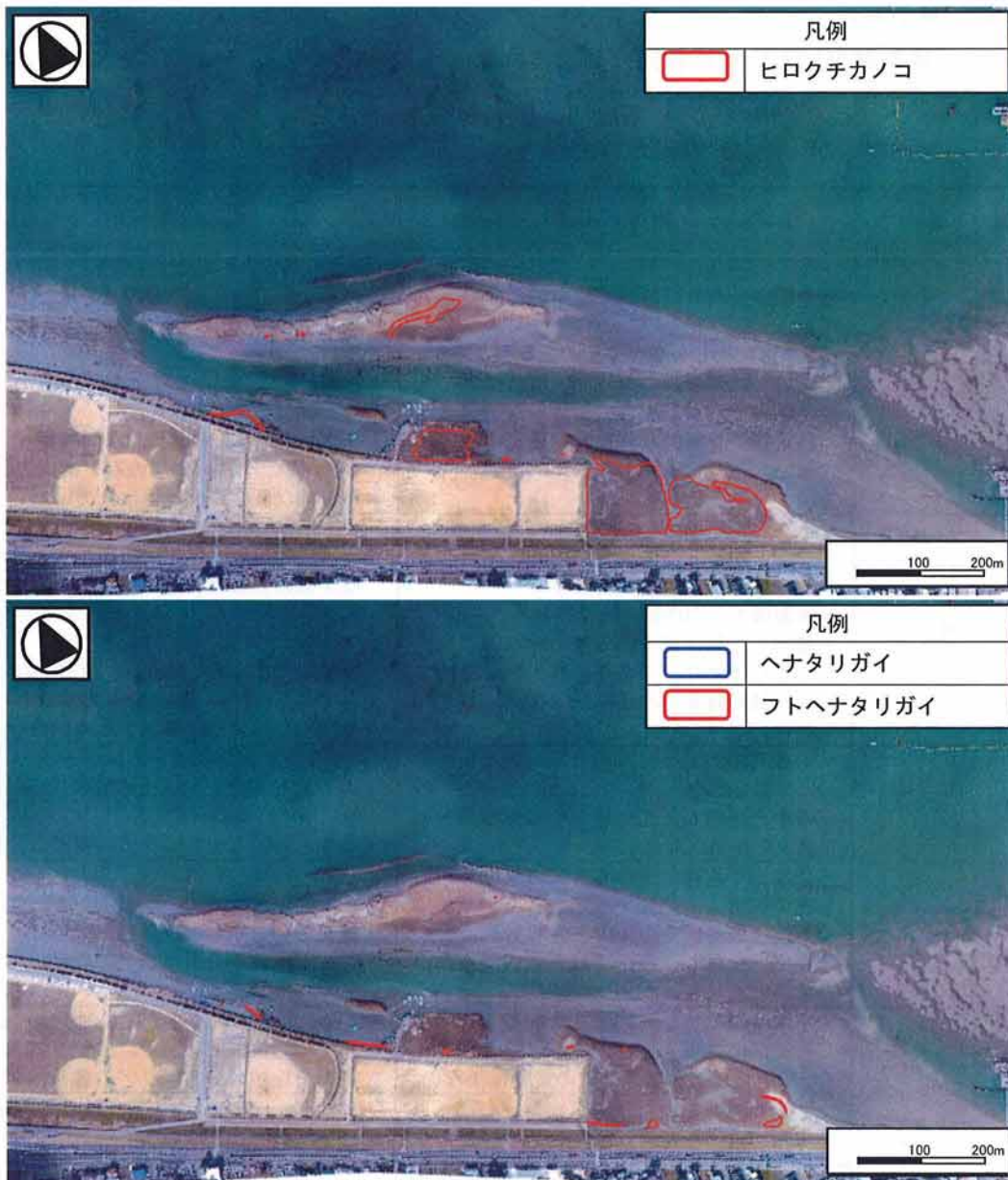
図 5-1-2(1) 春季調査：広域分布調査(河口干潟)

調査日：平成 17 年 5 月 8 日～10 日

観察者：株式会社バスコ 雑賀修一、北野武士 他 2 名

観察方法：干潟上で行動している底生動物を双眼鏡、望遠鏡を用いて確認した





<基図(レーダー測量を基に作成したオルソフォト)撮影日:平成 17年 3月 14日>

図 5-1-2(2) 春季調査: 広域分布調査(住吉干潟)

② 夏季調査

夏季調査において広範囲で確認された出現種の概要を表 5-1-4 に、広域分布の観察結果を図 5-1-3 に示す。

表 5-1-4 広域分布調査（夏季）で確認された主要種の概要

調査日：平成 17 年 7 月 20 日～22 日

種 名	河口干潟	住吉干潟
シオマネキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央のヨシ原内で局所的に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟中州の南側と右岸側干潟のヨシ原内やその周辺の泥域で確認された。住吉干潟ではごく少数の分布エリアが局所的に点在する。</li> <li>春季と比較し、ごく僅かではあるが分布エリアが拡大している。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>
ハクセンシオマネキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に干潟中央のヨシ原縁部で確認された。春季と比較し、ヨシ原内の分布エリアがやや広がっていた。</li> <li>砂泥域でも局所的に確認された。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟右岸側と右岸側干潟のヨシ原内やその周辺の泥域で多く確認された。住吉干潟では少数の分布エリアが局所的に点在する。</li> <li>春季と比較し、ごく僅かではあるが分布エリアが拡大している。</li> <li>確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>
チゴガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟右岸側の砂泥域の水際付近で局所的に確認された。</li> <li>春季と比較し、ごく僅かではあるが分布エリアが拡大している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟の水際部及び右岸側干潟のヨシ原周辺や水際部において比較的広範囲に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>
コメツキガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂泥域の水際付近から干潟の高潮域付近まで非常に広範囲で確認されており、本干潟に最も広く分布する種である。</li> <li>春季と比較し、僅かではあるが分布エリアが拡大している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟左岸側の一部と右岸側干潟の一部の砂泥域で分布が確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>
アシハラガニ属 <sup>注)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央のヨシ原内やその周辺で比較的広範囲に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟の中央付近や右岸側干潟のヨシ原内やその周辺部で広範囲に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>
ヤマトオサガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟右岸側の泥が主体の箇所において数カ所分布が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟右岸側及び右岸側干潟の泥域で広範囲に分布が確認された。</li> </ul>
スナガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟両岸の高潮線付近や河口側にも局所的に分布が確認された。</li> <li>春季と比較し、僅かではあるが分布エリアが拡大している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>右岸側下流の砂域（泥混じり）で分布が確認された。</li> <li>春季には確認されていなかった。</li> </ul>
ヒロクチカノコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央のヨシ原内で比較的広範囲に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟中央のヨシ原内（砂泥域）と右岸側干潟のヨシ原内で比較的広範囲に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>
ヘナタリガイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央部から右岸側にかけての砂泥域で広範囲に確認された。</li> <li>春季と比較し少し分布エリアが狭まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季調査では確認されなかった。</li> </ul>
フトヘナタリガイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟中央のヨシ原内やその周辺の砂泥域で広範囲に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉干潟のヨシ原内で 1 カ所と右岸側干潟のヨシ原縁部やその内部の砂泥域で局所的に確認された。</li> <li>春季と比較し分布エリアの変動は少ない。</li> </ul>

注) アシハラガニ属：目視確認した分布範囲の中にアシハラガニとヒメアシハラガニが混在しており、現地観察での同定が困難なため「アシハラガニ属」として扱った。

調査日：平成17年7月20日～22日

観察者：株式会社バスコ 北野武士、横田治彦 他2名

観察方法：干潟上で行動している底生動物を双眼鏡、望遠鏡を用いて確認した





<基図(レーダー測量を基に作成したオルソフォト)撮影日:平成 17 年 3 月 14 日>

図 5-1-3(1) 夏季調査: 広域分布調査(河口干潟)

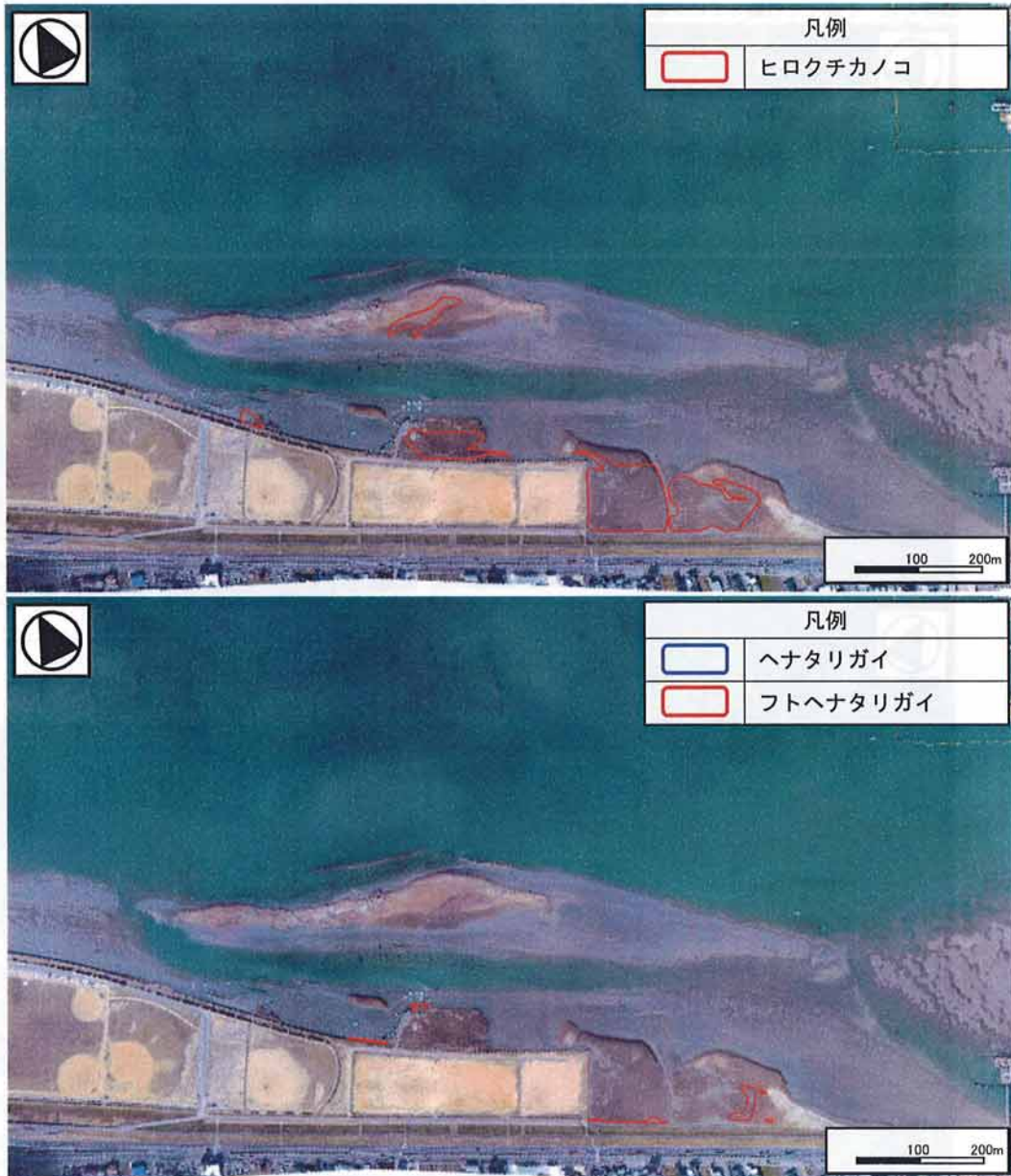


調査日：平成 17 年 7 月 20 日～22 日

観察者：株式会社パスコ 北野武士、横田治彦 他 2 名

観察方法：干潟上で行動している底生動物を双眼鏡、望遠鏡を用いて確認した





<基図(レーダー測量を基に作成したオルソフォト)撮影日:平成17年3月14日>

図5-1-3(2) 夏季調査: 広域分布調査(住吉干潟)